

令和4年度 第1回 富谷市男女共同参画推進審議会 会議録

日 時：令和4年5月10日（火） 14時30分～16時24分
会 場：富谷市役所3階 305会議室
参加者：富谷市男女共同参画推進審議会 出席委員8名 欠席委員2名
：富谷市 1名
：事務局 5名

1 開会（司会：市民協働課 課長補佐）

2 市長挨拶（若生市長）市長挨拶

皆さんこんにちは。本日は平日の大変お忙しいところ、令和4年度第1回富谷市男女共同参画推進審議会ということで、ご出席をいただきましたこと、まずは心から感謝を申し上げたいと思います。只今、開会に先立ちまして、新たにこの度委員にご就任をいただきました3名の方に委嘱状をお渡しさせていただいたところでございますが、お引き受けいただきまして本当にありがとうございます。改めてどうぞよろしくお願い申し上げます。他の委員の皆様方におかれましては、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、男女共同参画に向けてということで、もう皆さん垂れ幕や色々なテレビ、新聞等で耳にしたり目にしたりしていただいたと思いますが、おかげさまで、令和4年3月末に内閣府の発表によりまして、富谷市が審議会等における女性の割合が、53.1%ということで、全国1,741市区町村の中で第1位という発表がなされたということでございました。女性活躍、そして男女共同参画を推進してきた取組の中で、結果として全国で1位になれたというのは大変嬉しく思っております。振り返りますと、私は2015年2月に、当時はまだ町でありましたが、町長に当選させていただいて、2月12日から就任ということでございました。そして就任して、色々な会議に出席をさせていただいて、やはり、色々な会議に出ても、当時は男性の方々が多く、そういった中でちょうどその年の8月に国会では女性活躍推進法が成立をしたということでございました。富谷の場合ですと、ちょうど先月末の人口で約25,600人が男性で女性が26,600人なんですね。1,000人くらい女性の方が多いという中で、富谷の未来、富谷の将来、審議会において、男性、女性、同じくらいの割合でご意見を頂くことによって広い視点でご意見を集約できるのではないかとということで、もっと女性に参画、参加していただきたいということをお話をさせていただき、取組を始めたところでございました。とは言いましても、この審議会委員というのは、1回で簡単にできるものではなく、今、審議会は30ほどあって女性委員は約130人、その中で任期も、1年任期もあれば2年任期、3年任期、4年任期、あと任期がない審議会というのもあったりしますので、全庁を挙げて審議会の委員をお願いする場合に、担当課が皆違うので、各担当課がその切替えの時にそういったところを意識していかないと、なかなか半数というのは難しかったところでございました。ただ、確実に2019年、令和元年からですね、上位にランクインされるようになって、この度全国1位になったということでございます。富谷におきましては、地方創生交付金を活用し、旧役場庁舎をリニューアルして、新たな拠点、まちづくり産業交流プラザ、通称とみぷらということで、平成29年にスタートしたのですが、建物がいくら新しくなっても大事なのはそこに集う人がいなければということで、富谷塾という起業塾を呼びかけさせていただきました。当時20名くらい参加してもらえればいかなと思っていたのですが、ところがなんと、1期生が75名、2期生が約140名で、3期生が遂に200人を越して270名ですかね。4期生がこの間終わりましたけども、216名ということで、実はその6割以上が女性。まさにこれは富谷の大きな限りない可能性、特に多くの子育て中のママさんたちがその富谷塾の塾生と

して参加していただいたというのは、富谷の大きな力だなと改めて感じたところでございます。今回5期生も間もなく5月15日、今度の日曜日からスタートいたしますけれども、既に100名近く入塾の申込みをされているということでございまして、そういった流れの中で男女共同参画をさらに推進していくということは、富谷にとって重要な位置づけとなるものでございます。

今回、平成31年3月に策定をいたしました基本計画の見直しを行いたいということでございまして、見直しを含めて、委員の皆様にご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。皆様方には、限られた時間ではございますが、忌憚のないご意見を賜ればと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3 委員紹介・事務局紹介

各委員から自己紹介。その後、総務部長より、市の出席者の紹介。

4 会長の選出及び職務代理者の指名

互選により、会長に槇石委員が就く。

会長の指名により、会長職務代理者に高橋委員が就く。

5 会長挨拶

それでは、会長挨拶ということでございますけれども、先ほど皆様の色々な自己紹介の中でも伺ったことと重なりますので手短かに申し上げますが、男女共同参画という言葉ですが、先ほど高橋委員から男女平等というようなお言葉が出たり、会議、様々な審議会の中で男女共同参画の意識をどのように具体的に見せるかというようなことで、ジェンダーの主流化とか、色々な言い方がこれまで政府から県、そして市町村の中でも様々な計画の中で言われてきたと思います。私たちが、男女共同参画という言葉に大分慣れたものですから、男女共同参画でよろしいと思うのですが、本当はジェンダーとか、男女平等とか、非常に率直に言いたいなという強い思いが、今でも私自身の中にはあります。けれども、大分定着した言葉として男女共同参画があるならば、これを使うというのもいいことだと思います。先ほど申し上げましたように、私たちの中には色々な思い、私自身もですが、やはりまだ、固定的な性別分業意識であるとか、それから男の子は男の子らしくだとか、女の子は女の子らしくだとか、そういったほとんど素朴に思ってしまうような感覚、感情、認識が様々なところに残っています。そういう中でも21世紀になって、いろんな形でそれらについて、具合の悪いものは直していく、そして、もっとそのことによって苦しんでいるというか、つまらないなと思っている女性たちないしは男性たちも含めて直していく、革新していくということが行われてきたわけです。そういう一つの証として今回、先ほど市長さんも触れられたように、やはり審議会という一つの政策や施策の諮問するところで男女がかなり互角に、いやむしろ若干50%超えていますから、そういう形では本市はすごく先進的だと私は思っていて、何でも一番っていうのを喜ぶだけでは少し子どもっぽいのですが、いいなと思いました。まして自分がこういった審議会の委員として関わっているところであれば、余計に嬉しい思いがいたしました。そこで、これをさらに進めていくためにはどうしたらいいのだろうか、そして今回、計画の半分のところでの見直し、7年の半分のところでの見直しであるならば、更にどんな風に、男女共同参画を見直していき、尚且つ更に素晴らしいものにしていき、男の人も女の人も自分の生き生きとしたライフコースを歩める、そういうまちにしてくれたためにも、やはり様々なところで、先ほど少し申しましたように、ジェンダーの主流化という意味では、見える形でこの男女共同参画を推し進めていきたいなという思いにあふれています。そのような形でこの会を進めたいと思いますので、時々言葉がやや上滑りになるところがあるかもしれませんが、皆さんも忌憚のないご意見やご感想を

いただいて、進めさせていただきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

6 諮問

若生市長から審議会へ諮問。

※ 市長 退席

※ ここから、会長が議長となり議事が進行された。

7 審議事項

(1) 富谷市男女共同参画基本計画の改定について

(槇石会長)

いよいよ議事に入りますが、その議事に入ります前に、委員の皆様にお諮りいたします。今日傍聴はいらっしゃらないと伺いましたけれども、審議するものの中身を情報公開条例に基づく開示請求があった場合には、本審議会と会議の資料及び会議録の公開につきましてはご了解をいただけますでしょうか。

※「異議なし」の声あり

委員の皆様にご了解を頂戴いたしましたので、会議録等の開示請求があった場合には公開することといたします。もちろん、個人に関する情報等が含まれる場合には、富谷市情報公開条例第7条に基づき部分開示とすることを申し添えます。では、今日は傍聴人はいらっしゃらないということですので、進めさせていただきます。

それでは、議事に入りますが、説明からお願いいたします。

(市民協働課 高橋課長)

それでは資料の説明をさせていただきます。説明に使用する資料は、資料1となりますので、お手元にご準備をお願いいたします。

なお、資料2につきましては、現行計画をベースにした改定案となっております、答申書案になるものでございます。なお、市長のあいさつや統計資料の一部については、今後、市で改定する際に、改めて内容の更新等について検討してまいりたいと考えております。また、資料3につきましては、参考資料として、男女共同参画に関する本市の現在の状況をまとめたものでございます。

それでは資料1の1ページをお願いいたします。はじめに、1 富谷市男女共同参画基本計画における「男女共同参画の指標及び男女共同参画の状況」の進捗状況についてでございます。基本目標1に関する指標として、一つめが、審議会等委員への女性登用率でございます。こちらにつきましては、令和4年4月1日現在、暫定値で51.5%となっております。令和元年度から、目標値46%を上回っている状況となっております。なお、備考欄のとおり、令和3年には、地方自治法202条の3に基づく審議会等委員の女性の割合として53.1%の数値が、内閣府の調査において、全国市区町村中、第1位となっております。内閣府が全国ランキングを公表している基準については、202条の3に基づく審議会等のみで集計されておまして、本市において集計の対象としている、地方自治法180条の5に基づく、教育委員会や選挙管理委員会、農業委員会などの委員会は集計の対象外となっております。次に、管理職の女性の割合でございます。こちらは令和4年4月1日現在、23.4%となっております。なお、令和3年の数値の低下につきましては、国の基準の統一により、算出方法を変更したことによるものでございます。次のページになります。基本目標2に関する指標として、保育園待機児童数でございます。令和4年4月1日現在、0人ということで、3年連続、待機児童0となっております。次に基

本目標3に関する指標として、市立幼稚園、小中学校のユネスコスクール登録数でございます。こちらにつきましては、令和元年度に全ての市立幼稚園、小中学校が登録されております。次に、基本目標4に関する指標として、企業誘致による新規雇用者800人以上のうち女性雇用率につきましては、令和2年3月31日までの3か年とも、目標値を大きく上回る、60%以上の数値となっております。次のページをお願いいたします。基本目標5に関する指標として、町内会長に占める女性の割合につきましては、横ばいの状況となっております。また、小中学校のPTA会長に占める女性の割合につきましては、令和4年4月1日現在では約6割となっておりますものの、数年来、割合が高い状況が続いております。最後に総括となりますが、目標値を設定している5項目のうち4項目において、目標値を達成している状況となっております。

このような状況を踏まえまして、次のページになります。2番、「男女共同参画の指標及び男女共同参画の状況」の見直しについてでございます。現行の男女共同参画基本計画においては、本市の総合計画及び各個別計画を参考に、指標を設定しているところでございますが、現行計画を策定以降、総合計画等の改定が行われておりまして、その中で目標値等も新たに設定されているところでございます。現行の男女共同参画基本計画は令和7年度までの計画となっておりますので、基本的には現在の計画内容を継続していくこととしておりますが、総合計画等の改定に合わせた指標の一部見直しについては、必要と考え、今回、お諮りをさせていただいたところでございます。

それでは、それぞれの項目について、説明をさせていただきます。はじめに審議会等委員への女性登用率につきましては、総合計画前期計画において、当初の目標値を達成したことから、後期計画において、新たな目標値として、50%を維持する目標値が設定されております。このことから、本計画においても記載のとおりに見直しを行いたいと考えております。次のページをお願いします。管理職の女性の割合につきましては、富谷市特定事業主行動計画が令和7年度までの計画として、昨年度新たに策定されました。その中で目標値については変更ないものの、項目名称が変更になったことから、本計画も合わせた形で整理したいと考えております。次のページになります。保育園待機児童数については目標値の変更はございませんが、記載のとおり整理したいと考えております。次のページをお願いします。市立幼稚園、小中学校のユネスコスクールの登録数につきましては、目標値が達成されたことから、新たに、富谷市教育振興基本計画に設定されている、市立幼稚園、小中学校の一貫したESDカリキュラムを作成した中学校区数を、指標とすることで整理したいと考えております。なお、計画策定時の数値はございませんが、令和4年4月1日現在の現況値は、全中学校区で実施されている状況となっております。次のページになります。企業誘致による新規雇用者800人以上のうち女性雇用率につきましては、目標値を大きく上回る形で達成されたことから、新たに、総合計画後期計画に設定されている、新規誘致・操業企業の新規雇用者数のうち女性雇用率を、指標とすることで整理したいと考えております。なお、目標値は累計で50%、計画策定時の数値はございませんが、現況値としては、令和3年3月31日現在で59%となっております。次のページをお願いいたします。町内会長及びPTA会長につきましては、記載のとおり整理したいと考えております。

最後に改定のスケジュールでございます。本日の審議会開催後、ご答申をいただいたうえで、本年7月までに改定を行いたいと考えております。説明は以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(槇石会長)

ありがとうございます。只今の非常に詳しい事務局のご説明を受けまして、少し論点を整理しながら、こんなところを少し揉んだらどうかというようなこととお話したいと思っております。まず一つ目の意思決定過程。これは本当に先ほどから何回も言いますように、本当に50%

超えている、50%超えていいのかという話もあるかもしれませんが、これからは、その中身を少し精査していただくというようなことが必要かなと思います。つまり、どのような会議に女性が登用されているのか、それから、女性委員の重複はないのかどうか、そのあたりをもう少し踏み込んで精査する、見ていくということが、せっかくこの数値が素晴らしい数値であるだけに必要なことかなと思いました。そのあたりを具体的な数字でどうこうということではないのですが、考えながら施策を進めていただきたいと思いました。

それから、基本目標の2です。本市のセールスポイントといたらおかしいのですが、育児ないしは子育てということについては、物凄いサポートシステムがある。このサポートシステムを更に推し進めるということの中に、男女共同参画の意味合いを込めるというようなことは、先ほどからありましたように、目標3のユネスコスクールやSDGsとの関わり合いも含めてあるのですが、アンケートをとるというようなことで、子どもたちの具体的な状況をもう少し出していただくようなことがあっても良いのではと思います。基本目標2や3については、どのように具体的になっていくのかということと、見える化していくということが必要かなと思って伺っていました。

それから、基本目標4、ここが今回のコロナ禍にあっては、女性の就業状況というのが非常に非正規ということがあるのと、それから営業、小売であるとかそれからサービス業などの業種、そういうところにある程度、非正規として女性が関わっていることの方が多いので、雇用率そのものよりも、どうやって働いていく人たちがコロナ禍の中では先に切られていくか、逆に、そういう意味では、非正規率が下がったという言い方もされるほど、女性たちの働く場が失われていったという状況もあります。このように、800人以上のうちの女性の雇用率というような数字はなかなか厳しいものがあるのではないかと思いますし、特に、今は70まで仕事をするというようなことが一般的になっている中で、40代から60代の中老年女性の正規雇用化など、こういう具体的な女性雇用率の中にどのように位置付くのかなと説明を聞きながら思いました。そして、もう一つ言えば、職業を今後続けていく中にあっても、それから普通地域生活を続けていく中にあっても、やはりIT、こういった情報処理技術、そして情報処理を中高年の女性たち、これは男性もそうですが、特に女性たちのこれまでのライフコースを見ていると、そういったスキルをうまく自分のものにしていくことがなかなか難しい状況があったところで、仕事や地域活動をするにあたって、少し情報が届かない部分があったり、気後れをする部分があったりするのではないかと。ですから、非常に先進的な技能やスキルということを追いかけているのではなくても、基本的なレベルのスキルをもう少し多くの女性たち、特に中高年期の女性たちが身に付ける必要があるのではということも、雇用などの問題とも絡めて思っています。

それから、基本目標5、特に地域活動のことですが、このあたりも、町内会なんかはもちろん、実際多くのよく言われる縁の下の力持ち的な役割は、女性たちがこれまでも担ってきたと思いますが、やはり会長職というか、ある意味では意思決定をするというようなところにどれだけ女性たちが出ていけるか、そして、そういった状況は男性たちもきちんと受け止めるような地域活動になっていくかということが今後の大きな課題と思っています。特に、世代、世帯、そして人口増もこれからも益々考えられる本市においては、町内会長に占める女性の割合が倍になってくれると嬉しいかなと思っている次第です。ただ一方では、小中学校のPTA会長に占める女性の割合は極めて大きいです。私は、ここについてはむしろ学校教育にもう少し父親ないしは地域の男性も含めた形で関わってもらうためには、一時富谷もそうでしたが、女性が膨らんだのが少し下がったんです。私もそこは下がったので良いのではという風に思っている次第です。つまり、小中学校のPTAの会長には、もう少し男性も出ていくということがあっていいのかなと思っています。それが本市の子育てをより確かなものにしていくと思っています。こんなことを考えながら、思いながらご説明を聞きましたけれども、皆様どのよう

に考えいただくか、お一人お一人のご意見を基本目標1であるとか2であるとかではなくても、おっしゃっていただき、充実した改革、改定という形にしたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。それでは、高橋委員から順にお願いします。

(高橋会長職務代理者)

先ほど会長からの改定するにあたってということでのコメントをお伺いしながら、全くその通りだなと思っております。現状維持の方がいい、例えば基本目標1の46%なのに本市においては51.5%とかですね。こういった半数以上が、けれども、いったいこの中身が、ということもおっしゃられていたので、今度はこの数値は維持しつつも、やはりその実態、実際の中身がどうなっているだろうかということも、せつかくこういう計画を立てながらですから、その辺を検証するというか、その効果もきちんと確認しながらやっていくべきではないのかなと思っております。

それから、子育て支援とかあるいは幼児教育、学校教育云々というような基本目標のところでも、やはり、会長がおっしゃっていた具体的にどうなっているのかということですよ。とにかくあの素晴らしい言葉がオンパレードみたいにはなってしまうけれども、やはり具体的にどうなのかというようなことになるのだと思いますね。いわゆるそういう実質的な部分を大事にしながら、今後更にこの計画を実際に則った形でやっていければいいのかなと思います。

また、ITということもおっしゃられましたが、年齢に関係なく非常にITに詳しい方もいらっしゃるわけですから、今後増々そういったようなことがコロナ禍のみならず、推進されるものと思いますので、それに対応した形で男女に関わらず、やっていければいいのかな。そして、なによりも男女共同参画基本計画の中に、市長のご挨拶が載っているわけですが、その中で、やはりここが本当の基本中の基本で、男女が互いに人権を尊重し、そして性別に関わりなくその個性と能力を築くことができる男女共同参画社会の実現がより一層求められますというような、ここに尽きるのではないかなと思います。そういった形で、いいところは今後そのまま維持するし、更に具体的なところもちゃんと検証しながら、そしてまた先ほど会長がおっしゃられていた中で、PTAの会長の比率ですよ。必ず女性活躍のような感じについて取られてしまうのですが、逆に女性の比率が下がったことによって男性がという、やはりその辺もさすがだなと、そういう視点というのは本当に大事なところだなと思います。本当の意味での男女平等と先ほど申し上げましたけども、共同で参画しながらよりよい社会の実現に向けてということになっていくと思いますので、そういったことを重視しながらという思いであります。

(槇石会長)

ありがとうございます。見える化と最近コマーシャルでも使われますが、昔は可視化と言ったと思いますけれど、本当に見える形の数字というのは、なかなかいいものだと思いますが、やはりその実態はどうなのかということですね。それを今高橋委員からおっしゃっていただいたと思います。

(葛原委員)

県の方の指標もいくつかありまして、それを見ながら考えてみたのですが、まず基本目標1、審議会等委員への女性登用率50%維持というところで、県の方では、令和7年のところでは45%を目標としていて、これまでの推移を見ると現況値としては3割台が続いており、やはり富谷の地域のこれまでの積み重ねというか、男性も女性もそれぞれに、自分を発揮して意見を述べたり、力を出して活躍していけるという、そういう風土はずっと長い歴史の中で蓄積していて出来上がっているんだなというように感じながら見ていたところです。50%維持とい

うところで、維持という言葉は資料を見せていただいたときに感じて、あっ、そういえば逆転しすぎてダメだよなというのを思った次第でした。やはり、県の方でも多くの審議会がある中で、4割から6割というバランスでちょっと悩むような場面もあったりする中で、やはり50%維持で今、状況として51.5%という50の数字があるところで、この数字を維持していくというのは大変、妥当なのかなと思いながら見ていたところです。それこそ多くの審議会の中身というか、ジャンルによっては色々ばらつきがあるのかなと思いますので、これから色々委員が選ばれていく中で、次の委員、次の委員とバトンタッチをしていくときにどのような形でバトンタッチされていくのかということのも大事な視点になっていくのかなと感じて見ておりました。

それから、富谷らしさがすごく出ているなと感じた目標が、やはりESD関係のところ、富谷の学校教育のキャラクターがよく出ているところかなと感じながら見てきたところです。市政前の富谷町時代からユネスコスクールとして活動している学校もありましたし、今、SDGsも大分各地、どんどん進めているというところもあり、ESDのカリキュラムについてはそれぞれの学校、今まで蓄積してきたものも持っているの、ここはぜひ進めてほしいなと思いつつ、また今度改定後の目標というのが、登録するというよりもカリキュラムの内容の方に迫ってきた目標になったなと実感しながら見ておりました。既にもう現況値として中学校区で作成しているというところでしたが、ぜひ、それぞれの学校の今までの蓄積が生きてきて、そして成果が発信されるようであればいいなと思っております。私も勤務していた時にユネスコスクールに関わる事業も色々作ってきたのですが、やはり継続した職員の研修や、地域の方やそれから家庭の保護者の方に向けて、ユネスコスクールって何なの、ESDっていうのはいったいどういうものなの、というところをすごく発信していく必要があるなと感じておりましたので、ぜひ施策を進めるにあたり、学校からの発信というものも大切にされたいのではないかなと思っております。ユネスコスクールの活動というのは多岐に渡るし、非常に幅広いですけれども、きっとそれぞれの学校でテーマを持ちながら富谷ならではの作り方があると思いますので、とても内容を楽しみにしているところです。きっと、この事業のESDを進める中で、学校内外の方々と子どもたちが出会う場があると思っておりますが、そういったところで男女共同参画のロールモデル、大人がロールモデルとなっていかかと思っておりますので、その辺りの意識も高めていければいいのかなと思っております。

(榎石会長)

富谷の小学校に随分関わってくださっていたので、私よりも具体的な形でユネスコスクールのことをおっしゃっていただいたのですが、私なんかはユネスコというだけで世界遺産とか、こんな形で出てくるユネスコですが、実際は文化や学習知識そういったものを世界的な動きの中で行う国連のユネスコと、それから地域に即した、仙台ユネスコが発祥だと言われておりますけれども、そういったユネスコが各地にある。そういうユネスコという言葉自体もやはり小中学校にこうやって位置付くと、子どもたちにとっては、あっそうか、そういう形で様々な国とつながることになるのだな、というようなことになるし、それからSDGsだと、17の目標の中の5番目の目標にジェンダー平等ということがきちんとうたわれているということも含めて、色々な学校から持ち帰るお便りなどで各家庭の子どもを通して親御さんも認識を深める。そうしないとなかなか、サステナブル開発目標、こういった英語を縮めた文句が我々の家庭にまで届くことはないと思います。しかし今、全ての富谷の小中学校で義務教育の中でしてください。そしてそれが色々な形で男女共同参画にまでつながるような形になる。よく言われますように多様性であるとか、そういう子どもたちになんとか培っていただきたい力、そういったものにつながるのではと思うと、富谷の子育て、子どもにやさしいまちづくりという宣言までしていただいているようですから、総合計画の中の教育と子育て環境を誇るまちという位置付け

をしている中にも非常にマッチングするかなと思っています。

特に令和7年度までに管理職に占める女性の割合の現況値の23.4%が35%という10%オーバーに近づくのかという風に思わないでもないのですが、しかし元々、その下の但し書きにもありますように管理職の総数から5級職の保育統括監ですか、保育所長、幼稚園長を除くことになったと書かれています。ここに書いてあるものは、元々女性職業域と言われているもので、そういう職であるからかなという風に思うのですが、私は、実はここも除かれなくてもいいのではないかと感じたりします。なぜならば、やはり、統轄をすとか所長であるというようなところをきちんと位置付ければ、やはり、女性たちもプライドを持ってこの職を全うすると思うのです。だから、恐らく国は、そこは女性職業域でそもそも女性が多いからというようなことで、より精緻な数字をあげようという認識があるのだと思うのです。それは分からないでもないのですが、私はむしろこういった数字もしっかり本当に意味あるものとしてカウントしてもいいのではないかなと個人的には思っております。

(阿部委員)

この共同参画の数値を見て目標数値がそれぞれ達成されているところ、達成されていないところ、そしてこの数値を求めることによって何がどう変わるのだろうかというのを少し感じました。それは、この審議会等に対する46%という一つの目標に対して富谷は51.5%、達成していますが、実際、会議に出られたときに女性がこれだけの数字になって、今までの会議と何が大きく変わったのでしょうかという、その視点も大事なのかなと。

それから、今管理職の女性の割合というのが会長もおっしゃいましたが、やはり色々な家庭環境とかそういうのを抱えながら仕事に就く女性というのは大変な苦労があって、自分だけではなくて家族の協力あるいはご主人の協力といった、様々なものを抱えながらその職に就かなければならないという特性があります。ですから、ただ単にその女性の進出数値を50対50なりいくつかの数字を求めるだけではなくて、ある程度これは男性の領域の仕事というようなもの、あるいは女性の領域の仕事というような色分けといいますか、そういうものも一つ必要になってくるのではないかなという気がしました。それから、育児及び介護に関する社会的支援の充実ということで、保育園の待機児童がゼロになりましたと。このゼロという数字だけを見ると、いい目標を達成したと思うのですが、富谷市の中においてこのゼロのキャパシティですよね。今、例えば100のものに対して100の児童がいて、ちょうどギリギリの状態達成されているのか、それともまだあと20人くらいの余裕がありますよという、そのキャパシティがあって達成されているのであれば、その職場で働いている保育士さんたちの働き方、あるいはその職場環境っていうのは割合と余裕があって、非常にいいものだと思うのですが、このゼロだけを見ると本当に預けるだけの条件はそろっていますけれども、そこで働く保育士さんたちの労働条件といいますか、そういうものはどのようなものなのかなというのを少し疑問に感じました。

それから、次年度以降の目標ですけれども、育児及び介護という表題の割にはこの介護について一言も触れられていない。今児童の待機も改善されたのであれば、今後は家庭環境の中で介護を抱える家庭はどれだけあるのか、その必要性は一言もうたわれてないので、次年度の待機児童のところを推進していくような計画になっていますけれども、ここはもう待機児童のキャパシティがある程度あるのであれば、今度は介護の方に目を向ける必要もあるのではないかなと感じました。

(榎石会長)

本当に今鋭いというか、育児及び介護に関する社会的支援の充実で、確かに介護について無いですよという感じですよ。それと、私急いで基本計画の方も見たのですが、先ほど言おうか

なとも思ったのですが、コロナ禍でDVが増えたというようなことがよく言われておりまして、国の調査では1.6倍というような数字もあがっていました。問題はここでは、基本計画の本文15、16ページですけれども、ここにも介護のことは言葉としては載っていないわけではないのですが、今おっしゃっていただいたような形では触れてないというのは事実ですよ。ですから、この辺りを介護に関する社会的支援、特に介護は今よく言われていますように女性が主に担っている。でも、男性が担っている場合でも残念な事件が起きたりということもございますし、この辺りを男女共同参画の視点に立って介護を見た場合にはどういうことが言えるのか。そして、どういう施策が必要なのかというところも、もしかしたら、ここでは「介護休業等の両立支援制度の周知啓発を行い、市全体の機運醸成に努めます。」と書いてありますが、介護については、本市は比較的高齢化は宮城県全体の中では低いと、低いと言ってももちろん日本全体から言ってもあるわけですけども、やはり介護に関しても男女共同参画的視点に立った施策ということをもう少し触れていただくといいかもしれませんね。ただ、その具体的な指標というか、こういう数値で見える化というのはなかなか難しいなということもございますよね。とても大事な視点、指摘だったと思います。

(郷古委員)

頂いた資料を拝見いたしました。とても高い数値を富谷は達成しているのだなと思って素晴らしいと感じております。目標が達成している項目につきましては、今後これを維持しつつ、またその内容を充実させることが今後大切なのではないかなと感じています。また、富谷も子どもの年齢なども段々落ちてまいりまして、今後高齢化の割合が高くなると思われまいます。その時には、お互いに見守り、助け合える地域の関係性が重要になってくるのではないかと思います。また女性の職場に対しても、安心して職場で勤務ができるということは、家庭での協力がとても重要になってくるのではないかと思います。また、妊娠や出産、育児なども考えますと、職場の理解そういったことも今後大切ではないかなと感じました。

また、ユネスコスクールに関してですが、3年程前に市内の小中学校のユネスコ担当の先生にアンケートをとったことがあります。ユネスコスクールに認定されていて、各々の地域のテーマに沿って活動はしているものの、具体的にどういう活動をしたらいいのか正直なところはっきり分からないとか、毎年何となく同じようなことを継続して活動しているという、何となくこう、ぼんやりとしたものが各小中学校の先生からのご意見、ご相談が挙がってまいりました。ユネスコの方ではここ3年くらいコロナでなかなか思うように活動ができていないところもあるのですけれども、学校の総合的な学習の時間などで協力できますよということは先生方には伝えておりまして、昨年はあけの平小学校の4学年からご依頼がありまして、作る責任・使う責任というテーマから新聞紙を使ったエコバッグ作りというのを2クラス、1時間1時間に分けて指導してまいりました。ガムテープやホチキスを一切使わずに、新聞紙と糊だけで作るのですが、乾くとバリッとして非常に丈夫で10キロほど入るんですね。子どもたち大丈夫かなと思ったのですが、すごく皆さん上手に作られて、お家に帰ったらまたかわいい包装紙で作ってお母さんにプレゼントしましたとか、おばあちゃんにプレゼントしましたというお子さんもいらっやして、感謝のお手紙なども頂戴したのですけれども、これは一例でございます。少しずつウィズコロナということで、今後また市内の小中学校からご依頼などがありましたら、講師の派遣などもできますし、一緒に協力して子育て支援の方にも関わっていきたいなと思います。

(槇石会長)

具体的な活動というのが一番実は難しいわけですね。まして、今おっしゃったように、そこにまた更に活動させるリーダーというかチューターというか、そういう指導者がいなくてはいけないことを派遣して下さっているわけですね。そこら辺は地域と学校教育というのはこれが

ら色々な形でタイアップしたり、協力し合う、コラボするということがもう前提になっている部分ですけれども、特にユネスコのスクール、学校を通してやるのは割とやりやすいんでしょうね。そして、今私が思ったのが、ガムテープやホチキスを使わない、それから今よく言われているようにポリエチレンとか、有機合成材など、そういったものを使わないということが、また一つの大きなSDGsの中に入ってる思想、考え方だと思うのですけれども、本当の意味でユネスコの活動ってというのは幅広いなと感じて素晴らしいなと思いました。が、なかなか難しいでしょうね、きっと。小学生はいいけれど、中学生はどうなのかだとかね。

(柿崎委員)

平成から令和と時代の変化で、今はもう結婚しても男性女性平等に家事を行う、育児も行うという時代になってきているので、女性の管理職、先ほどの項目2にありますように、女性の管理職というのは増えつつあるのかなとは感じておりますが、私は昭和生まれで、女性は結婚して妊娠したら専業主婦になるという時代でもありましたので、当時、正社員で勤めていたのですが、その会社を辞めて専業主婦になりました。そして、一度専業主婦になると女性は家のことをやるのが当たり前だと、今もそういうのは私の家庭では少しあるところもあります。やはり管理職になっていきますと、夜までの仕事、イオンですと夜10時までやっておりますので、10時まで仕事をしなければならない。そうすると、ご飯を作るのも主婦である私たちだったりするので、朝起きて子どものお弁当を作って、夜ご飯を作って仕事して、帰ってきてというところで、なかなかやはり上を目指したいと思っても、現状、子どもが大人にならないと、成人にならないとちょっと難しいのかなというのは、実際今私もその状況にいるので、難しいなどは少し感じております。ただ、やはり男性の育児休職をどんどん進めていく企業もあったりするので、今後女性男性本当に平等という風になって、社会も進んでいくのか、政府もそういう風に行っているという話もよく耳にしますので、今後本当にそういう風になっていけばいいかなとも思っております。

(槇石会長)

今、上を目指したい、ないしは目指す能力も含めて女性たちにあると思うのです。だけど今おっしゃったように、ワークライフバランスを女性だけに求められるのが今の状況ですよ。ワークライフバランスという言葉は口に直ぐ出てくるのですが、やはりまだまだ育児、そしてさっきおっしゃってくださった介護ですらなかなか男性がというようなところには至っていないし、実際育休だって日本ではまだまだ、下手するとコラムを書けるような依頼が来るというような状況も含めて。そして、市役所や県庁という公的な職員というようなところでしか数字が出ていないっていうのも実情だと思います。そういう中であって、やはり営業する時間が長いような職種においては、今おっしゃったように、個人ではとてもそういった状況を克服するわけには当然いかないわけですね。そうすると、ある時期は非正規になるのかとか、色々な形で女性のライフコースは一様に最終学校を出てから突っ走るといってはいかないっていうのが自分自身でもよく分かっているのですけれども、そこら辺がまさしくこの男女共同参画を少しずつでも攻めていく、進めていくというところの大きな課題であり問題であり、現実だなという風に受け止めたいと思います。だから、本当は先ほど高橋委員が、本当にこういうのがなくなればいいよねとおっしゃってくださったように、まだまだ目指していかなければいけない職場における女性の参画、促進であったり、それから管理職における女性の割合の目標値をやはり高めなければいけないであったりということは、現実の状況を考えると大変だけど目指していく、見える化していく数値だということはあるわけです。先ほどこの会議の前に話題にしたのですが、都道府県の地方公務員採用試験、大卒程度ですが、そこにおける採用者に占める女性の割合のデータが載っているのですが、管理職になる女性の割合もさることながら、一体そういった公務員になる女性

はどれくらい採用されているのかなという風に見ました。その数字を上から、宮城県はどこにあるだろうとずっと追っていったら、ラストだったんですね。都道府県が一番ラストだったんですね。これは一体どういうことなのかと思うほど、やはりなかなか入口の段階ですら、難しい状況がどうやら宮城県にはあるのかなと思うわけです。その辺りも含めて、やはり数字を目指すという意味はあるかなとまだまだ思う次第です。ですから、実感として今おっしゃってくださったことは本当によく分かるし、その通りだなと思いつつも、やはり目指そうっていうことが重要なと思っている次第です。

(佐々委員)

計画の数字、目標値達成というところが大部分になっているので、こういう風に数字で見える化するというのは非常に計画の中で大事だなというのは思います。私どうしても、福祉の職場でお仕事させていただいているので、福祉でも最近では数字である程度表すようになってきて、その部分に対しても目標値というような形で達成度っていうのを測っていくのは大切だなと思っています。私は数字云々というよりも、改定案の市長の挨拶は直るっていうような事務局から説明があったのですけれども、ここの市長の挨拶の下から5行目ですかね、本計画に基づき、市民・事業所・関係機関の皆様と実現に向けて取り組んでいくというような形で、やっぱり富谷は本当にこの広報にも示している通り、全国1ということで数字上、こういったようなかたちで素晴らしい値が出ていますと。なので、次のステップとして、やはり私は情報発信、周知、啓発というようなところをもっと市にリーダーシップを取ってもらえたら力強い計画になるのではないかなと思います。その理由は、私は社会福祉法人で勤めているのですが、企業だったり事業所だったり、福祉の事業所でも、我々で言えば役員がいますと、13人役員がいる中で5年前は女性が3人でした。ただ、富谷はこういう風に5年前から数字が上がっていることによって、我々も今13人中6人が女性の理事になっています。ということは、やはりそういった形で、広報だったりホームページなどで情報発信をさせていただいて、企業だったり事業所にメッセージを強く訴えていくことによって、住みよいまちにつながっていくのではないかなと思います。やはり、女性の方がいるというのは、言い方が少し違うかもしれないのですが、敷居が凄く温かく感じるように私は思います。ですから、そういった土壌を企業にも事業所にも、もっと強く求めていくのではないのですけれども、情報発信、周知、啓発というようなところをぜひ、計画の中にうたっていただいて、企業も今地域貢献というような形で、市のはちみつプロジェクトや入口の花植えとか色々なところで企業も積極的になっている部分があるので、そういった活躍の面で女性の方が見えれば、非常に富谷市全体としてのアップにつながっていくのではないかなという風に思います。

また、先ほど阿部委員さんがおっしゃっていた、育児及び介護に関する社会的支援の中で介護が無いというようなお話がありましたけれど、地域福祉計画が長寿福祉課の方で令和3年度、市の上位計画として、福祉部の計画として位置付けられた中に、介護保険の認定率や要介護者数、色々な形で数字が載っているの、昨年度策定された計画なので、その辺新しいデータとして参考にされると、非常に厚みのある計画になるのではないかなと思いますので、ぜひ、参考にさせていただければと思います。

(槇石会長)

今おっしゃっていただいた、情報って発信されているのですが、実際は、その具体的な形で届きにくいというのもあるのと、それからもう一つは、女活法っていうのが安倍政権のときにあったと思うのですが、この中で例えば女性が活躍をしている、例えば先ほど13人の中に6人理事がいらっしたとか、そういう数値が上がっているところには何かマークをあげたんですね。えるぼしですか。女活法ではかなりびしっとした概念規定があるんですね。例えばそれをもう少し

し富谷バージョンにしたときには、NPOだったらこういう感じ、それから社会福祉法人だったらこんな感じというような形で、差し上げると言ったら言葉が過ぎますけれども、そういう認定の仕方をする、さっきおっしゃったようによりやりがいがありますよね。そして、職場の雰囲気も良くなるというような、女性たちも気持ちがいいけれども男性たちも心地よいというならば、えるぼしは確か3つ4つくらい種類があったと思うのですけれど、ただそれはなかなか規定が難しいので、そのもう少しファジーなというか、緩やかなバージョンが市ではやりやすいのかなと。それが情報発信という形に見える化かなとお話を伺っていました。ただ、それをどこに盛り込むかというのがなかなか難しいかなと思いますが、ただ、情報発信で周知徹底するというのは、これは男女共同参画の基本ですから、非常に重要なことだったと思います。

(福井委員)

今私は人権擁護委員をしているのですけれども、ここにDVのこととかも書いてありますが、女性がDVを受けるという方は書いてあるのですが、実は今密かに男性も配偶者からDVを受けているというのも増えています。このDVで見ると女性が配偶者とか交際相手からDVを受けるというのは凄く大きく取り上げられたり、注目されたりはしているのですが、実は男性も配偶者や交際相手からDVを受けていることが増えている事実もありますので、先ほどから男女平等とかそういう風に話が出ている中で、女性が弱いからDVを受けているのは女性という風に捉えられるけれども、実際は男性もDVを受けているのが増えてきています。

また、この資料が送られてきたときに、最初に職場における男女共同参画の状況というのを見て、育児休業の取得率で男性が取得率0%で女性が100%になっていますというのを見たときに、先ほどから皆さんの意見で、家庭の中で両親が共同で色々子育てや家庭生活を営む中で、育児休業を男性ももっと取りやすくなったらいいのになと思ひ、その見本となるように富谷市役所の中で、男性の職員の方たちも育児休暇を取って、こういう風に男性も育児休暇を取っていますよということを発信出来たら、もっと富谷市内でも働く男性が育児休暇を取りやすくなるのではないかなというのを、この資料を見ながらすごく感じていました。

それから、今私NPOの活動で、この市役所の屋上ではちみつプロジェクトというのに関わっています。そこで、富谷小学校の子どもたちが蜂のことを勉強したり、リモートで授業があったり、蜂の生体を通して自然の大切さとか命の大切さ、それを伝える活動をしていますけれど、それが富谷市全体で花の種を蒔いたり、自然を大事にしようとか、そういうのがもっと広がって、はちみつプロジェクトも年齢関係なく、男女関係なく皆さんで蜂を可愛がって、そしてそこからちょっと蜂蜜を頂いてという、そういう生活サイクルというか、先ほど発信という話も出たのですが、もっと富谷市全体で、そういう情報を色々公開し、富谷市の自然がいっぱいあることや、子どもたちを育てる環境がすごく良いこと、それからこの介護ということでも、ご近所付き合いから介護とか共同の輪が広がったりとか、そういうものがもっと広がっていけば、男女とか、それこそ先ほど郷古委員がおっしゃったように、障害がある方とかない方とかそういうのを全部関係なく、皆さんが住みやすいまちに富谷市がなれば良いなと思って考えてみました。

(槇石会長)

ありがとうございます。先ほども少し触れましたけれども、まだまだ男性が育児休業を取るというような利用状況すら、公的な公務員くらいしかなか取れないと思うんですね。もちろん上場企業云々で時々小さな数字は載っているのですが、いずれにしても、この本文の12ページにありますように、富谷市の育児休業制度の利用状況が載っており、やはりこれは28年度も29年度も対象の男性がいた場合でも取得はしていないということがありますよね。これはこの方たちが別に肩肘張って取らないと言っているわけでもなければ、取りたいと思って

いるのか、そして配偶者がどういう状況なのかとか色々なことが考えられますので、なかなかこの数字だけでは、良くないというわけではないのです。ただ、育児休業という前に、育児休業制度が例えば給与の問題であるとか、様々なそれに付随する状況が絡むので、市役所といえどもなかなか難しいとは思いますが、こういう在り方の中で、これからどういうところを文章に載せるのかは分かりませんが、誕生したときに男性がせめて1週間でも、出産休暇、ちょっと言葉は分かりませんが、そういった事柄から進めるような。これは、実は私の思い付きではなく、新聞に載っていたんですね。それを今思い出したのですけれども、そういう形で先ほどから富谷バージョンという風に申し上げましたが、すんなり国ないしは交付制度、育休制度、これはもちろん法律で決まっているわけですが、そこに則った形で進めるというのはやはり、我々日常的なレベルでいっても難しいですよ。けれども、もしかしたら富谷バージョンで、富谷市のバージョンで、1週間くらい取ったらどうかというように市の男性職員に言う。そして、そういったことを企業がどこかでやっていけば、それをまた先ほどの情報発信じゃないですけど、何らかの形で褒め称えるというのもおかしいけれど、よくやったねというような、そういうかたちの前進の仕方っていうのもあっていいかなと。それが富谷が今後、子育てであるとか住みよさも含めたまちづくりの大きな課題にしているならば、まさしく子育て環境を誇るまちになれる。これは住みたくなるまちの中の一つの大きな柱になっていますが、そういう意味では富谷という所が色々な形で富谷バージョンで作られたシステムを出していく、ということが今おっしゃった中ではできることかなと。そうしないと実はもう市役所ですらゼロが続くしかない、ならば一般企業はもっとかなと思うのです。ですから、できる形にしてそれを少し褒め称えるというか、そうすると一步は前進するかなという状況かと思えます。先ほどジェンダーの主流化なんて格好良く言ってしまったのですが、実際は主流化するのはえらい大変なことです。少しずつそういう考え方を色々なところに忍ばせるといふようなことが、できればこの改定案ないしはこの次の基本計画のとき辺りに。率直なところで言いますと、なかなか改定案には難しいかなと思うんです。改定案の骨子というのはもう作られていますから、改定案の中になんか施策の細かいところを盛り込むのは難しいかと思えますが、そういうことを少しずつ市は考えてるんだという形をどこかに忍ばせていただくといいのではないかと思います。やはり、富谷はそのくらいできると、審議会の何をとっても日本一っていうのはすごいと思うんですよ。中身は、皆さんご指摘のとおり色々問題がまだあるとは思いますが。ジャンルによってはゼロな審議会だってあるだろうし、それから重複している女性委員の場合もあるだろうと、それはもう重々承知をしている上でも、日本一というのはやはり日本一なんですよ。日本一を目指す色々なことを言っている段階の第一歩が、男女共同参画に深く関わる課題っていうのはなんだかちょっと嬉しくなっちゃいますよね。だからそういう意味でも、富谷バージョンを進めていくと色々な形で効果は表れるのではないかなという風に、言うのは簡単だということも重々承知しておりますけれど、具体的な施策として形にするのは大変ハードルが高いことかもしれないけれども、それがやはり富谷の今後の子どもたちも生き生きとする、そしてその子どもたちを誕生させる若い世代の方たちも、じゃあ富谷に住んでみようよという形になる可能性は高いと思います。ですから、富谷の中の住みたくなるまちの中に、ジェンダーの男女共同参画の課題を入れ込むときに、子どもの問題であるとか、女性たちがどういう風に働くのかとか、みんなこう絡まっていることなのですが、やっぱり子どもを色々な形で盛り立てていくことの中に、大人の喜びがある。そして人権という風におっしゃったけれど、そういった意味でのまちづくりの核になると思いますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思えます。時間が少なくなってきましたが、何かぜひもう一つ言ってみたい、言い残したと思われることがございましたら、おっしゃっていただきたいと思います。いかがでしょうか。よろしいですか。

それでは今日の審議会で改定するというようなところに持っていくわけですが、この

一つ一つについて皆様ご意見いただいたのですが、それを全ての形で盛り込むという訳にもいきませんし、数字的な問題は皆様それなりの読み方の違いはあるとは思いますが、こういった形で載せるということでもよろしいでしょうか。私自身はやはり数字を、先ほどちょっと到達するかなと言いましたが、高めるという意味ではそれは意味があると思っております。ですから、最終的な答申ということについてはまた後日、皆様に送付させていただきますし、そして、何らかのご意見があればまた言うていただければいいと思います。その辺りについて、一応基本はこの改定バージョンでいくということでもよろしいでしょうか。

※「異議なし」の声あり

(榎石会長)

よろしいですか。ではそのような形にさせていただきます。本当に皆様ご協力ありがとうございました。では、事務局にまた進行をお願いいたします。

8 その他

(司会)

榎石会長、委員の皆様、大変ありがとうございました。その他として事務局から連絡がございます。

(事務局)

それでは、会議録、答申案についてご連絡いたします。今回、計画の改定案を答申書として扱うことにご異議ございませんでしたので、委員の皆様には後日、会議録の確認依頼のみ送付いたしますのでどうぞよろしくをお願いいたします。

今後の予定については、資料1、2でもお示ししている通り、5月中に会長から市長への答申を行い、その後7月頃までに市議会へ改定案の報告を行う予定でございます。また、本日の審議会の実施状況を市ホームページに掲載予定でございます。また、7月中に計画の一部改定を予定しております。なお、今後、答申の方法については会長とご相談させていただきまして、書面の送付のみとするか手交とするかについては進めてまいりたいと考えております。

9 閉会

(司会)

それでは、閉会のご挨拶を会長職務代理者の高橋委員からいただきたいと思っております。高橋委員、お願いします。

(高橋会長職務代理者)

令和4年度第1回の富谷市の男女共同参画推進審議会、会長をはじめ委員の皆様から貴重なご意見をちょうだいしまして、私も本当に勉強させていただきました。ぜひこういった意見を十分にこの改定に生かしていただくようお願いして、本日の会を終了したいと思います。皆様お疲れ様でございました。ありがとうございました。

(司会)

ありがとうございました。以上を持ちまして、令和4年度第1回富谷市の男女共同参画推進審議会を終了いたします。本日は大変お疲れ様でした。

以上